

新品種候補 (2016年1月作成)

育種事業課題名: たまねぎ新品種候補「北見交65号」の概要 (513331, 513363)

担当部署: 北見農試・研究部・地域技術グループ

キーワード: たまねぎ、加工・業務用、乾物率・Brix、長球形質、貯蔵性

特性一覧

系統名: 「北見交65号」 組合せ: KTM9843-02-01A×N0 NC・S・C

- 特性: 長所 1 加熱加工適性に優れる (高乾物率・高Brix)。
 2 剥皮加工歩留まりが高い長球形質を有する。
 3 収量性 (加工用収量、平均一球重) が優れる。
 4 比較品種より貯蔵性が高い。

短所 1 耐抽台性がやや劣る。

1. 特性表

調査場所		育成場			地域適応性検定場			地域適応性検定現地 ^{注1)}		
		北見農試			花・野菜技術センター			全道8ヶ所		
調査年次		平成24~27年			平成25~27年			平成25~27年		
品種・系統名		北見交65号	スーパー北もみじ(標準)	カロエワン(比較)	北見交65号	スーパー北もみじ(標準)	カロエワン(比較)	北見交65号	スーパー北もみじ(標準)	カロエワン(比較)
項目										
生育期節	早晩性 ^{注2)}	晩の晩	晩の中	晩の晩	晩の晩	晩の中	晩の晩	晩の晩	晩の中	晩の晩
	肥大期(月日)	7.16	7.18	7.16	7.16	7.17	7.16	7.17	7.15	(7.15)
	倒伏期(月日)	8.14	8.7	8.9	8.14	8.6	8.8	8.14	8.5	(8.7)
生育盛期	生葉数(枚)	8.1	8.1	8.2	10.5	10.5	10.4	-	-	-
	草丈(cm)	71.9	65.0	68.9	82.6	78.3	80.9	-	-	-
	葉鞘径(mm)	16.9	16.2	17.2	19.4	19.7	19.5	-	-	-
生育不良等	抽台株発生率(%)	0.2	0	0.2	0	0	0	0.7	0	(0.5)
	青立株発生率(%)	0.1	0.3	0	0	0	0	0.1	0	(0)
	乾腐病接種 ^{注3)} 検定発病株率(%)	6.7 ^{ns}	9.9(強)	-	-	-	-	-	-	-
収量性	総収量(kg/a)	788	534	744	841	784	768	693	622	(698)
	加工用収量(kg/a) ^{注4)}	768	529	681	841	784	764	684	618	(659)
	同上標準対比(%)	147	100	129	107	100	97	113	100	(106)
	平均一球重(g)	255	174	241	276	252	269	249	216	(249)
長球形質	球形指数 ^{注5)}	115	92	111	116	92	111	111	88	(106)
	長球形数率(%)	62	2	39	62	0	41	55	1	(33)
内部品質	乾物率(%)	11.6	10.1	10.3	10.9	9.0	9.4	11.1	9.5	(9.9)
	Brix(%)	11.1	9.6	9.9	10.2	8.5	8.9	10.6	9.1	(9.5)
貯蔵性	翌春健全球数率(%)	91.8	92.7	61.7	93.9	87.0	45.7	96.2	93.4	(70.8)
育成場における栽培上の知見		内部品質 ^{注6)}			乾物率(%)	Brix(%)	加工適性評価 ^{注7)}		北見交65号	北もみじ2000
倒伏揃期から約2週間後で根切りしても、収量性を大きく損なうことなく、乾物率等に大きな影響を与えず、枯葉の前進化に有効である。		北見交65号			11.6 ^a	11.1 ^a	剥皮歩留まり(%、a) 加熱歩留まり(%、b) 加熱時間(min) 全体歩留まり(%、a×b)	82.5 54.5 54 45.0	79.7 51.5 61 41.1	
		スーパー北もみじ			10.1 ^b	9.6 ^b				
		カロエワン			10.3 ^b	9.9 ^b				
		北もみじ2000			9.9 ^b	9.6 ^b				
		ゆめせんか			11.3 ^a	10.9 ^a				

注1) 地域適応性検定現地試験は、全24事例(「カロエワン」は17事例)による平均。

注2) 「北海道野菜地図(その38)」品種特性表の倒伏期欄より判定。注3) nsは分散分析により有意性がないことを示す。

注4) 総収量より「小球」、「分球(平成24,25年)」、「過分球(重度な内・外分球、平成26,27年)」を除外したもの。

注5) 縦径/横径×100。長球形数率は、球形指数110以上の割合を示す(観察による)。

注6) 北見農試産における平成24~27年平均。異文字間で5%水準の有意差(Tukey多重比較検定)。

注7) A社加工ラインによる平成25~27年平均(標準品種同等の内部品質である基幹品種「北もみじ2000」を使用)。

2. 「北見交 65 号」の特記すべき特徴

晩生系統であるが、乾物率と Brix が高く、加熱加工適性に優れ、剥皮加工歩留まりが高い長球形質を有し、収量性および貯蔵性に優れる。

3. 優良品種に採用しようとする理由

近年の家族構成や生活スタイルの変化による「食の外部化」の進展に伴い、たまねぎにおける加工・業務用需要の割合は 54%（平成 2 年）から 59%（平成 22 年）へと増加している。この間、加工・業務用需要における輸入割合も 18%から 53%へと上昇してきていることから、加工・業務用需要に対する国内対応の遅れが国産たまねぎの販路縮小につながる危険性が指摘され（農林水産政策研究、平成 24 年）、これらに対応した供給体制の構築・強化が喫緊の課題となっている（加工・業務用野菜をめぐる現状、農林水産省、平成 25 年）。こうした背景をうけ、農林水産省は、輸入野菜からのシェア奪還に向け、加工・業務用野菜への転換を推進するため、平成 25 年より加工・業務用野菜生産基盤強化事業を創設し、たまねぎの一大産地である北海道（約 6 割の国内出荷量）でも、各産地において本事業を活用した取り組みが進められている。

これまでに北見農業試験場では、加工・業務実需者の需要に応えることを目的に、加熱加工時間の短縮やコスト低減につながる乾物率・Brix が高い「ゆめせんか」（平成 24 年北海道優良品種）を育成するとともに、貯蔵性は劣るものの、剥皮加工歩留まりが高い長球形質をもつ多収性の「カロエワン」（平成 26 年北海道優良品種）を北海道農業研究センターと共同で育成してきた。しかし、「ゆめせんか」の剥皮加工歩留まり、「カロエワン」の乾物率・Brix は一般品種と同様であり、両品種の特性や高貯蔵性を併せ持つ品種は存在していなかった。

たまねぎ新品種候補「北見交 65 号」は、晩生系統であるが、「ゆめせんか」と同様に乾物率と Brix が高く、加熱加工適性に優れ、剥皮加工歩留まりの向上につながる長球形質が「カロエワン」よりも安定し、多収性で、「カロエワン」より貯蔵性に優れている。

以上のことから、「北見交 65 号」は、加工・業務実需者の需要に応える特性を多く併せ持っている。加工・業務向けの生産・供給体制の構築に寄与することをおして、輸入たまねぎからのシェア奪還につなげ、道産たまねぎの消費拡大に貢献することが期待される。

4. 普及対象地域および普及見込み面積

全道のたまねぎ栽培地帯 70ha

5. 保存種子量および母球数

「北見交 65 号」種子 約 1,760g（約 35 万粒）
F₁採種用

種子親「KTM9843-02-01A」種子 約 100g、
母球 約 4,200 球

花粉親「NO NC・S・C」種子 約 100g、
母球 約 1,900 球



6. 栽培上の留意点

- (1) 耐抽台性はやや劣るため、抽台の発生が懸念される地域での栽培や早期定植は避ける。
- (2) 収穫期の遅れが懸念される場合には、倒伏揃期から約 2 週間で根切りを行う。